# 教育研究所だより

## 令和６年３月号

発　行
岡崎市教育委員会
教育研究所
☎８３－７７７０

## 論文執筆のメリットとは

指導研修係　　新　育大

一月上旬に市教育論文の提出がありました。応募数は個人の部、共同の部合わせて、三四五点です。この数は、教員の約二割に当たります。多くの教員が、論文の執筆を通して授業力、教師力向上に努めていることに頭が下がります。

教育論文を書き上げるのには、膨大な時間と労力がかかります。では、教育論文を執筆することのメリットは何でしょうか。

・教育に対して課題をもつことができる。
・他者の評価を通して、客観的な視点から自分の教育を見直すことができる。
・自分の実践に対する振り返りができる。
・子供の姿を分析することで、自分の教育理論や教育方法を深めることができる。

他にもたくさんあるでしょう。

教員の仕事は、他者から評価されにくいものです。今の自分の授業力が十分なのか考えなければならないと思います。目の前の子供のために、常に自分自身をブラッシュアップしないといけないと感じます。教員は自ら研究と修養に努めなければなりません。教育基本法第九条でも「絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない（一部略）」と記載されています。

論文は、「二十代は二年ごと、三十代は三年ごと、四十代は四年ごと、五十代は五年ごとの執筆」を目指してみませんか。岡崎市の先生方が積極的に研鑽を積むことで、教育の質が更に高まり、岡崎の子供たちの笑顔がより増えることを切に願っています。

## 大村はまさんに学ぶ

もう四十年前のことになる。青年教師の私は、先輩教師に薦められ、大村はま著「教えるということ」を読んだ。そのなかにある「仏様の指」は今も記憶に新しい。

先日、教育研究所の図書室でその本を発見。当時のことを思い出しながらページをめくってみた。大村さんが奥田先生から学んだ「一流の教師像」。時を経た今の時代にも十分通用する理想の教師像ではないかと確信した。

以下、一部抜粋して掲載。ぜひ、ご一読を。

（教育アドバイザー都筑）

## 3月　休館日のお知らせ

| 日 | 月 | 火 | 水 | 木 | 金 | 土 |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 4/25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 3/1 | 2 |
| 休館 | 休館 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |
| 休館 | 休館 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 10 | 11 | 12 | 13 | 14 | 15 | 16 |
| 休館 | 休館 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 17 | 18 | 19 | 20 | 21 | 22 | 23 |
| 休館 | 休館 | ○ | 休館 | ○ | ○ | ○ |
| 24 | 25 | 26 | 27 | 28 | 29 | 30 |
| 休館 | 休館 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |
| 31 | 4/1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 |
| 休館 | 休館 | ○ | ○ | ○ | ○ | ○ |

大村はま著「教えるということ」より一部抜粋

### 仏様の指

私が高校教師であった戦時中のことです。私は毎週木曜日、奥田正造先生の読書会に参加していました。「どうだ、大村さんは生徒に好かれているか」と尋ねられ、いろいろと考えて「嫌われてはいません」と変な返事をしてしまいました。そのとき、奥田先生は「そう遠慮しなくてもいい、きっと好かれているだろう。学校中に慕われているに違いない」と言って、次のように話をしてくださったのです。それは、

**『仏様がある時、道ばたに立っていらっしゃると、一人の男が荷物をいっぱい積んだ車を引いて通りかかった。そこはたいへんなぬかるみであった。車はそのぬかるみにはまってしまって、男は懸命に引くけれども車は動こうとしない。男は汗びっしょりになって苦しんでいる。いつまでたってもどうしても車は抜けない。その時、仏様はしばらくその様子を見ていたが、ちょっと指でそのお車におふれになった。その瞬間、車はすっとぬかるみから抜けてからからと男は引いていってしまった』**

という話です。

奥田先生は「こういうのがほんとうの一級の教師なんだ。男はみ仏の指の力にあずかったことを永遠に知らない。自分が努力して、ついに引き得たという自信と喜びとで、その車を引いていったのだ」とおっしゃいました。

「生徒に慕われているのは大変結構なことだが、まあいいところ二流か三流だな」と言って、私の顔を見てにっこりなされました。